2023-9-17

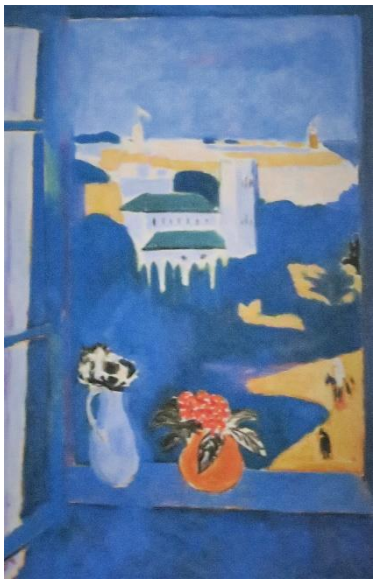
果てしなき絶景～マティスの旅と作品への反映～その３(モロッコ)

山本 雅晴

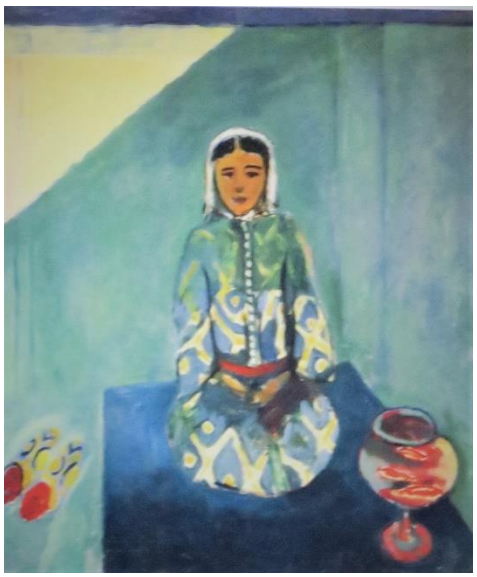
アルジェ・モロッコはフランスの植民地であったので、ドラクロア(1798~1863)は 1832 年に政府の外交使節の記録画家として訪れ「アルジェの女たち」を描いた。ルノワールはドラクロアの絵を模して描いており、1881 年にアルジェを訪れた。マティスは 1906 年にアルジェを、モロッコには、1912 年 1 月～4 月、10 月～1913 年の 2 月まで滞在して、ロシアの富豪のモロゾフ、シチューキンから依頼された絵を描いた。

図 1　モロッコ、タンジールの街と港

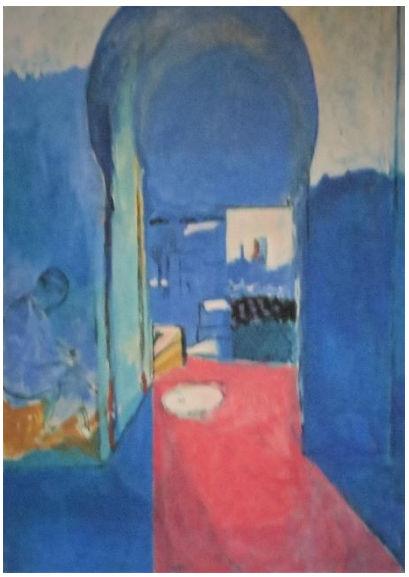
図 2　モロッコのカフェ 1912~13,エルミタージュ美術館



窓から見た風景



テラスのゾラ



カスバの門

図 3「モロッコ・タンジール三部作」1912～13 年、モロゾフ・コレクション、プーシキン美術館

いずれの作品にも金魚鉢が描かれており、アルジェ・モロッコでマティスが経験した東洋的な感性に共感したのか、この数年に１２～３点の金魚鉢が描かれた作品がある。最初の金魚鉢の作品は次頁に示す、イッシー＝レ・ムリーノの家の庭で描かれた作品の図 5 は、ここを訪れたシチューキンに他の作品とその場で購入された。

1906 年のアルジェ訪問の作品は「青いヌード～ビスクラの思い出」1907 年、ボルチモア美術館がある。この他、図 4 の「ピンクのたまねぎ」1907 年、コペンハーゲン国立美術館の作品にはアルジェで購入した陶器のポットが描かれている。このアルジェ訪問以降、外国の旅行先でその土地の織物や陶器を持ち帰りコレクションとし自作の中に取り込むようになった。

図 4 ピンクのたまねぎ 1907 コペンハーゲン国立美術館

図 4 はまるでゴッホが描いた作品のようだ。マティスは何度かゴッホ作品の展覧会を画廊で見ており、自分でもゴッホ作品を借り集めて展覧会を開いている。

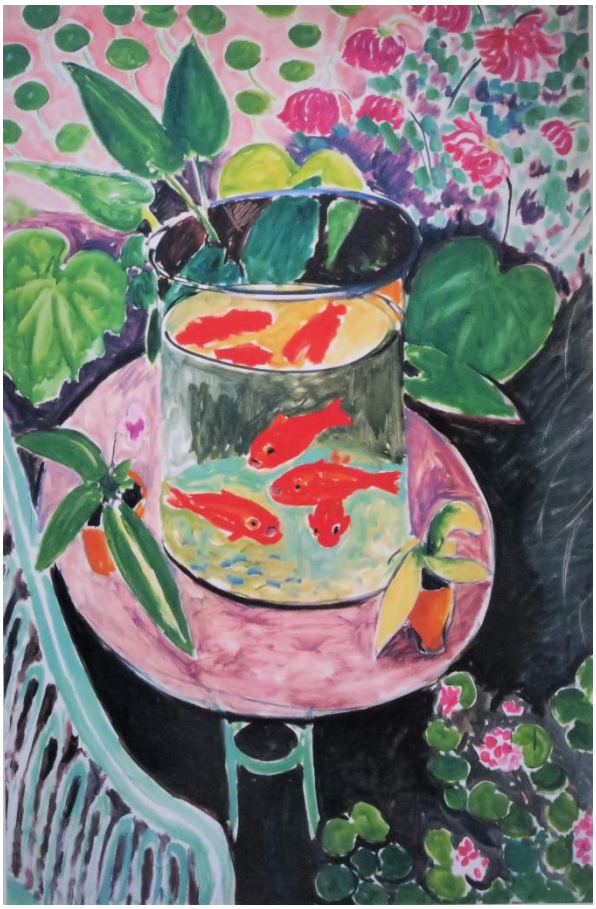


図 5 金魚, 1912 , 140x98 ,プーシキン美術館

図 6 青のハーモニー 1908　シチューキンの当初の注文 → **図 7 赤のハーモニー ,1908, エルミタージュ美術館**

図 6、図 7 はアルジェ・モロッコの旅行とは関係ないが、シチューキンがマティスの有力な顧客となり、親密な関係を築くきっかけとなった作品で、シチューキンは「青のハーモニー」を注文して完成作品とし、渡す前に画廊でお披露目もし、写真家に写真を撮ってもらっている。しかし、その後マティスは図 7 の「赤のハーモニー」にし、シチューキンに見せたら彼は何も言わずに納得して引き取った。ここに掲載した画像は NHK-E で放映された日曜美術館：2019-1-20 「熱烈！傑作ダンギ　マティス」から借用した。